

ウルトラバリア性プラスチック 材料の創製



永井 一清
Kazukiyo Nagai

理工学部 応用化学科 先端機能材料研究室
School of Science and Technology, Department of Applied Chemistry
<http://www.isc.meiji.ac.jp/~nagailab/index.html>

研究目的	ウルトラバリア性プラスチック材料の開発研究
研究内容	<p>プラスチック材料は、ビンやカンなどと比べて軽く、そして破損した際の危険度も相対的に低いためパッケージング材料などとして使用されている。しかしそのバリア性は、ビンやカンなどと比べて少々劣るのが現実である。コンビニやドラッグストアなどで、食品や医薬品の横でシャンプーやリンスのにおいがすると消費者も困惑することになる。</p> <p>当研究室では、ウルトラバリア性プラスチック材料の研究開発を行っている。このプラスチック材料には、生分解特性を付与しようと試みている。ウルトラバリア性プラスチック材料は、パッケージング材料の他にも電子材料・光学材料などのフィルム材料としての用途もある。</p>
用途	パッケージング材料，電子材，光学材料



●お問合せ先●

明治大学 研究推進部 生田研究知財事務室

TEL: 044-934-7639 E-mail: tlo-ikuta@mics.meiji.ac.jp

2014年6月改訂